

令和6年度第1回岡崎市景観審議会議事録

1 会議の日時 令和6年8月1日（木） 午前10時00分～午後11時30分

2 会議の場所 岡崎市役所分館2階202号室

3 会議の議題

- (1) 諮問第1号 景観重要建造物（善立寺）の現状変更の許可について
- (2) 報告第1号 中央緑道周辺地区景観形成重点地区の指定について

4 会議に出席した委員（12名）

学識経験者	瀬口 哲夫
学識経験者	杉野 丞
学識経験者	水津 功
学識経験者	森 真弓
学識経験者	宮崎 晋一
学識経験者	島津 達雄
学識経験者	長谷川 明子
各種団体	天野 裕
各種団体	奥野 幸子
各種団体	河内 利弘
各種団体	柴田 芳孝
市民公募	森本 茉央

5 事務局

都市政策部長		松澤 耕
都市政策部まちづくり推進課	課長	浅井 恒之
都市政策部まちづくり推進課	副課長	高橋 建一
都市政策部まちづくり推進課	景観まちづくり係係長	中村 敦
都市政策部まちづくり推進課	景観まちづくり係主査	阿部 尚由
都市政策部まちづくり推進課	景観まちづくり係主査	浅井 幸恵
都市政策部まちづくり推進課	景観まちづくり係主査	酒井 迅

6 会議の公開の可否について

本日の会議について、事務局から岡崎市景観審議会運営規程並びに岡崎市情報公開条例における会議の公開及び非公開に関する諸規定の説明を行うとともに、公開すべき旨の提案をしたところ、全会一致で承認された。

7 議事録署名者の指名

瀬口会長が議事録署名者に島津委員及び森本委員を指名した。

8 諮問第1号

議長が報告第4号に関する説明を求め、提出した資料に基づき説明者（まちづくり推進課）による説明が行われた。そして次の趣旨の質疑がなされた。

宮崎委員

基礎廻りを板張りにすることに関しては景観的にも良いと思うが、金網の状態から板張りになるため、通気性がどうなるのか気になる。現状を確認したうえで、湿気に対する対策をしてほしい。通気がなくなることによってシロアリの被害を受けることもある。

事務局

所有者や設計者等に伝え、湿気に対する対策について確認する。

杉野委員

七面堂正面左側の袖壁について、各立面図に記載した方がよい。正面の基礎廻りは横板張りになっている。一方で今回西と北の基礎廻りは縦板張りになり正面と側面が異なるので、図面上もそろえておくと床下の板張りの違和感がない。

また、西側は本来縁側があったと考察するが、おそらく直接雨が当たって腐食が進んで失われている。今回の施工も防虫処理と合わせて防雨処理を考えると良い。防雨のため、施工時は鉄釘ではなくステンレス製の釘を使うということが必要だろう。施工方法は現在の案の他に、下の額縁をそのまま裏板で取り付けるという方法、また金額的に難しいかもしれないが、額縁を付けて入れ込むという方法もないわけではないかと思う。この辺りは行政で判断してもらえれば良い。

瀬口会長

瓦で隙間を埋める方法は、平瓦を地面に対して垂直に並べる方法と横にして積む方法のどちらかで考えるということだったが、横にして積むと下に動物が潜っていく可能性がある。垂直で並べる方法は小端立てになると思うが、この方法だと土の中に瓦の一部が入っている状態になり、こちらの方が良いのではないだろうか。業者にも確認してもらいたい。

水津委員

湿度の懸念が残る場合、今は緑色の金網を外側から打ち付けている状況だと思うが、木枠に内側から黒色（艶消し）の金網を付ければ、何も設置していないような見え方で、湿度も今と変わりなく動物の侵入を防ぐことができるのではないか。本来的な木造建築の整備とは違うのかもしれないが、元の印象を残しつつ加湿の問題を解決できるかもしれない。

瀬口会長

建物が建っている場所はある程度高台になっているので、土地の状況を見て現計画が必要十分なのか、専門家にも確認しておくが良い。人工換気せずとも自然換気で十分とは思いますが、対策をとるように念押ししておくこと。

議長が諮問第1号に関する質疑の終結を宣言し、諮問が終了した。

9 報告第1号 中央緑道周辺地区景観形成重点地区指定について

議長が報告第1号に関する説明を求め、提出した資料に基づき説明者（まちづくり推進課）による説明が行われた。そして次の趣旨の質疑がなされた。

柴田委員

緑化に関して、最近木が少なくなってきており、特にこの炎天下で日影がなく、公園にも行きづらいと感じている。今回は緑が増えるような規制は設けていないのか。

事務局

大規模建築物の新築時には敷地面積の5%の緑化を設ける内容を記載している。また、配慮指針においては、緑陰をもたらす中高木の植栽を推奨する文言を入れている。

瀬口会長

それは民間への要望事項であって、行政が主体となるものではない。

この間民地の木が道路の上に覆いかぶさっていた場所があって、切っ飛ばすと強く意見する方がいたが、記載の「街路空間に緑陰をもたらす」というのは、あくまで影ができることを期待するということか。

事務局

行政としては木の枝葉が道路に出てもいいとは勧められない。街路空間にも影ができるような植栽とし、風をもたらしてもらい気持ちいい空間にしようということを意図している。

柴田委員

過去に、商工会議所前の通りのケヤキ並木は歩道整備で伐採されてしまった。緑化については色々な意見があり、岡崎市としては緑のまちにしようという方針だから我慢してくれというのか、反対意見があれば民主主義として実施しないのか、判断は大変難しいと思う。ただ、緑が少なくなっているなど思っており、この場で審議する話ではないかもしれないが、どうかならないかなということを感じている。

瀬口会長

景観形成重点地区くらいは緑が増える施策としてほしい。

島津委員

木の伐採等については、様々な団体から意見される。町内会は地方自治の基礎であり、これを中心に意見聴取されるのは当然だが、町内会に入っていない方もいるので、今回の地区指定についてはその方々に対しての周知もお願いしたい。

事務局

これまでに地元が主催している会議等に参加し、説明を行っている。引き続き地区の指定や規制の内容について話す機会を得て、周知を図っていきたい。

瀬口会長

住民に押し付けるのではなく、自分たちからそうしたいと思ってもらう方向になると良い。

長谷川委員

景観の中で緑を入れるというのは見た目ということもあるが、木があるだけで木陰ができて涼しく、気候変動対策の一環にもなる。岡崎市は世界気候エネルギー首長誓約にも署名して積極的に温暖化対策をしており、緑を入れて風の通る道をつくることは非常に重要だと考える。様々な問題があるかと思うが、未来のためのまちづくりとして木や緑を入れておく必要であり、方向性を立てて計画してもらいたい。緑のある道は生物多様性にもつながるものであり、世界的にも評価されている。重点地区だけでなく、ここを中心に広げていってもらえると良いと思う。

杉野委員

説明を聞きながら自分が見た中央緑道を振り返ってみると、整備前の中央緑道はあまり人が通らず、まちや暮らしに身近なところではなかった印象がある。現在の中央緑道は、緑化されただけの緑道から人が歩くまちに変わってきた。今回の方針は、中央緑道において緑に関する考え方があって、それを踏まえて周辺地区にどんな風に協力してほしいか提案するものだと思っている。中央緑道に係る緑の考え方があれば紹介してほしい。

事務局

公園緑地課には岡崎市の緑の基本計画があり、これに基づき中央緑道の緑化の方針を決めていると思われる。中央緑道に関する計画については改めて確認したい。また、今回の計画に反映すべきところがあれば入れ込みたい。

杉野委員

長谷川委員からも意見があったが、緑化の維持や遷移について長期的な展望に立った計画が明確になっていると周辺に対するお願いも説得力が増すのではないかと思う。

天野委員

今回の資料は、規制をするうえで参考になる良い事例を集めており、今後参照・比較して真似していきやすい。今後良い事例ができれば検証・啓発をしていけると良い。

これとは別件になるが、人が沢山来る花火大会と桜まつりの時に乙川沿いや伊賀川沿いに黄色などの暴力的な景観阻害要素となるカラーコーンが市街地に並ぶ。これが景観的に美しくなく、それを衆人の目に触れさせているということが悪影響だと思っている。まずは色彩を白やグレー系にすることを、景観形成重点地区に指定する中央緑道周辺地区から始められるといいのではないか。カラーコーンが違えば景観に配慮しているというメッセージが市民にも民間業者にも伝わると思う。色もあそこまで目立たせる必要もなく、黄色じゃなくても十分役割を果たせるのではないかと思うので、ぜひ検討してほしい。

事務局

市の公共施設の中から心がけることが市民の行動を促すものだと感じており、過去にも掛け合っているが改めて担当部署に確認するなどして検討するようにしたい。

瀬口会長

今開催しているパリオリンピックではどうなっているか注意してほしい。日本では京都が先進事例で、黄色や赤のカラーコーンは極力使われていないと思う。岡崎市は、岡崎公園内は設置物の色彩に気を付けている。それがどうして街に広がらないのかと思うが、カラーコーンの色の変更については検討をお願いしたい。

島津委員

岡崎公園内の設置物の色合いについて、石垣の色を用いたものもあると聞いたことがある。カラーコーンの色については、ただ変更するのではなくて、岡崎市の特徴を表す色にするとか、理屈をつけてやると岡崎市としてもやりやすいのではないか。

奥野委員

色彩について、一般の方には色の選択は難しいので、相談を受けたときに事例として提示できるようなカラーチャートがあると良いと感じた。また、緑化に関して、色彩と同じようにどのようなものを植栽すればいいのかとても難しく、葉が落ちず大きくなならない木が良いと言われる方が多い。岡崎市の在来種がどんなものかは分からないが、中央緑道に植わっているものが分かれば、自分の土地にも植えようとなるといいかと思うので、もう少し具体的な情報があってもいいかと思う。

瀬口会長

岡崎市の在来種というと、例えばどのようなものがあるのか。

事務局

事務局としても例示したいと思い、現在調べている。環境部局に確認したところ、岡崎市の

在来種は示していないとのことだった。愛知県が出しているグリーンデータブック等を参考にして、植栽として維持管理しやすい種類を抽出したいと考えている。

瀬口会長

まず、在来種について考える方法としては、愛知万博の際は本州中央部の植生を育てる方針により園内環境を整えて開催されている。また、商業施設イオンはその土地に自生する樹種を中心に植樹している。在来種で育てやすいということになると難しいが、在来種を植えることはある程度常識的になっているので、少し勉強すると分かると思う。

水津委員

イオンの森は潜在自然植生とあって、人間がいなかったら最終形の森としてどのような樹種で構成されるかを推定して作られており、必ずしも都市景観や快適に暮らす緑のイメージには合わない可能性がある。自然植生の遷移の過程の中で一般に好まれる雑木林は、人が住み関わって適度に伐採・間伐しているので、潜在自然植生には至らず、生物も多くいる状態である。愛知県も里山の管理はこの状態を維持しようという方針になっていると思われる。都市部においては、里山あるいは都市緑化の規範を新たに設定して望ましい都市緑化を考える必要があるのではないかと。

続けて、国土交通省はグリーンインフラに関してあまり積極的ではないようだが、海外では緑をインフラとして捉える考え方が多く、特に防災の観点から緑地があることの公益性が非常に高く、都市計画の骨格として設定されている。緑そのものが提供する価値は、防災はもちろん環境にも貢献するし、あるいはヒートアイランド現象を抑制するという観点からいけばエネルギー問題にも大きな影響を持つということを見ると、緑の基本計画（公園緑地課所管）より本来はもう少し大きな視点で扱うべき問題かと思う。総合的な施策の一つとして緑を扱うという体制になれば、横断的な緑の扱いができる。最近愛知県も並木をやめる方針を出した。人気もないのにお金を使っており不評を買うのでやめるということだが、沢山の公益性を生み出しており、単に一部の苦情を受けてやめるというのは視点が違うのではないかと考えている。景観だけの話ではないと思っているが、新たな組織として緑に関するインフラ的な取り組みを続けられると、緑が無くなることも少し改善するのではないかと。

森本委員

中央緑道という名称で緑が謳われているので、難しいことがあるかと思うが、ここを中心に緑が派生していくといいと思う。

瀬口会長

中央緑道は電話局があるので、戦争中の防空空地として一帯の建物を壊している。その後戦災復興の区画整理で南北に広く道を入れ、防空空地だったこともあり木を植えている。ヒマラヤスギを選んだ理由はその当時の流行だったかもしれないが、延焼防止が目的で、地元の人が切ることを反対したのは相当の理由がある。しかし、今は知識のない人が増えており、

緑道の木も少なくなっている。木が覆い茂っていてその中をゆっくり歩けるということも理想の一つかと思うが、それはそれとして、今回は民地側の緑という話であり、中央緑道の緑と合わせると、ある程度の緑化が見込まれるということだろう。

それから、自然植生の話として、岡崎城は大正時代に本多静六が造園計画を立てており、基本的な植栽計画ができていた。岡崎城は自然植生でありつつ、かなり間引いている。密林にする必要はないので、管理する必要があるが自然植栽の方がメンテナンスは簡単に済む。こういったことは、緑の基本計画でも議論していただくとよい。とにかく緑を増やしてほしいということを思っている。

議長が報告第1号に関する質疑の終結を宣言し、報告が終了した。

10 その他連絡事項について

事務局

次回、岡崎市景観審議会は12月頃に開催予定。

議長が全ての議事日程の終了を告げ、令和6年度第1回岡崎市景観審議会を閉会した。